

福島県浜通りにおけるヘアリーベッチ春播きの すき込み適期と炭素・窒素供給量（大熊町）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 特定復興再生拠点での地力増進作物の播種適期の検討（大熊町）

担当者 小椋智文、三本菅猛

I 新技術の解説

1 要旨

マメ科緑肥作物のヘアリーベッチの秋播きに加えて、春播きのすき込み適期やすき込み程度を把握しておくことは、品目に応じて計画的に土づくりを進める上で重要である。そこで、ヘアリーベッチの春播き（3月中旬）を行ったところ、すき込み適期は6月中旬（秋播き（前年10月下旬）は5月上旬）であり、炭素・窒素供給量は秋播きの4割程度であった。

- （1）地力の低い保全管理農地において、ヘアリーベッチ 10a 当たり 5kg を 2021 年 10 月 29 日（秋播き [寒太郎]）、2022 年 3 月 18 日（春播き [藤えもん]）に播種した。
- （2）草丈は、秋播きでは 5 月 9 日に頭打ちとなり、生体重も最大であった（図 1、2）。春播きでは 6 月 20 日に調査期間内で最長に達したが、生体重は秋播きの 4 割程度であった（図 1、2）。
- （3）秋播きでは 5 月 10 日に炭素供給量（234.1g/m²）、窒素供給量（20.2g/m²）ともに最大となった。春播きでは調査期間最終日の 6 月 20 日に炭素供給量（106.0g/m²）、窒素供給量（7.6g/m²）ともに最大であったが、秋播きの 4 割程度であった（図 3、4）。

2 期待される効果

- （1）ヘアリーベッチの播種時期に応じた施肥設計や作業計画が立てやすくなる。

3 活用上の留意点

- （1）秋播きに比べ春播きは炭素・窒素供給量が少ないことを考慮して施肥設計する。
- （2）秋播きでは 5 月 9 日、春播きでは 6 月 20 日に下位葉が黄化し始めていたため以後の生長は期待できず、すき込みの目安は、ヘアリーベッチの雑草化を防ぐためにも下位葉黄化初期・開花初期（種子生産前）が望ましい。
- （3）種代 ヘアリーベッチ 品種：藤えもん・寒太郎 各々約 6,000 円/10a

II 具体的データ等

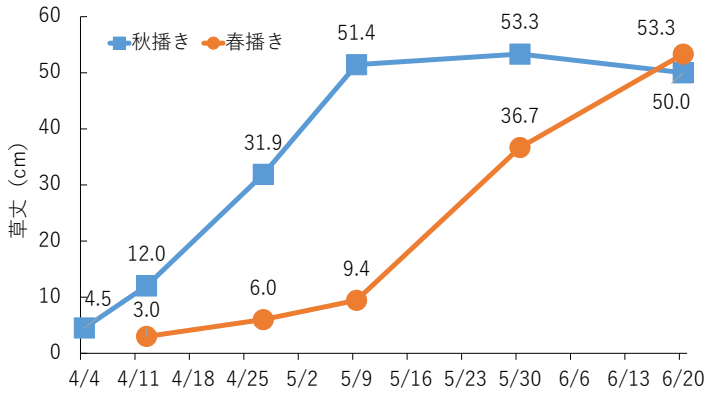


図1 草丈の推移

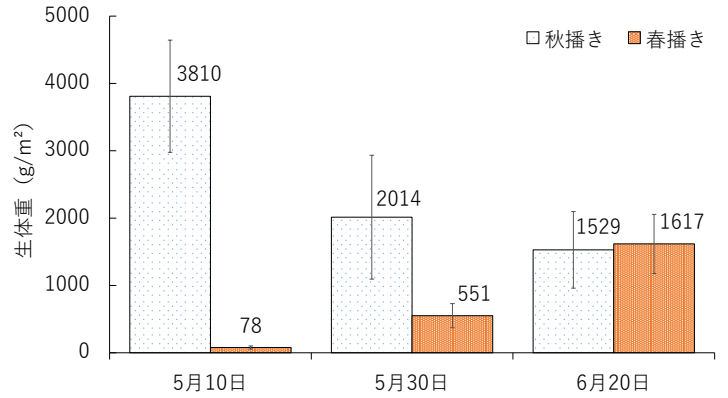


図2 時期別の緑肥作物生体重
(注) エラーバーは標準偏差を示す。

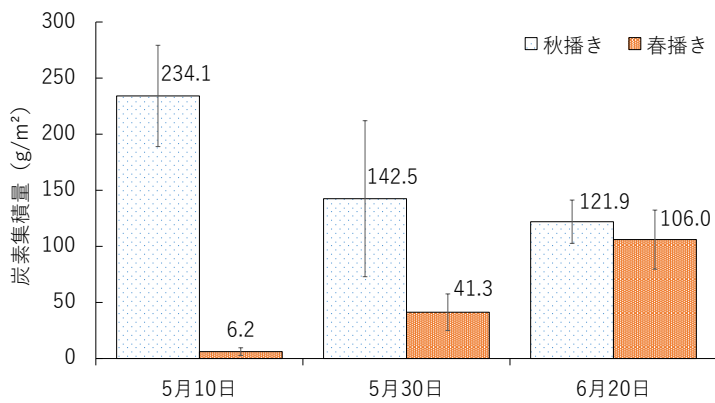


図3 時期別の炭素供給量
(注) エラーバーは標準偏差を示す。

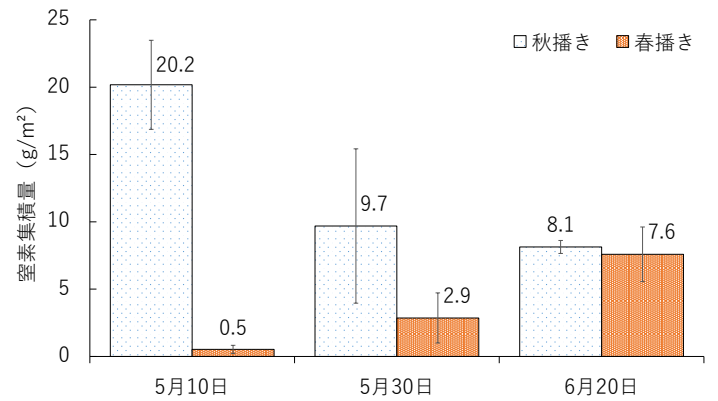


図4 時期別の窒素供給量
(注) エラーバーは標準偏差を示す。

III その他

1 執筆者

小椋智文

2 実施期間

令和4年度

3 主な参考文献・資料

緑肥利用マニュアルー土づくりと減肥を目指してー農林水産省委託プロジェクト研究「生産コストの削減に向けた有機質資材の活用技術の開発」(2015~2019年度)有機質資材コンソーシアム